

「平成18年度以降の教育課程」,「GPA・上限設定・成績評価」
に対する意見・質問のQ & A

17.07.01

	所属	職名	内容	回答
1	獣医学 研究科	教授	最終報告7頁, C.改革案の骨子 (2)理科の専門系コースと準専門系コースの設定中, 理科の専門系コースの科目, 生物学に「生理学」という科目が加えられています。これは具体的にどのような内容を学習させることを目的としているのでしょうか? 高校の生物学で現在教えられているような内容(神経の興奮伝導, ホルモン作用, 尿の生成など)を指すのでしょうか? 生理学は領域が広く, 2単位ですべてを授業することは到底不可能で, 当然2単位で教授できない領域が生じてきます。さらに, 生理学は形態学(解剖学)の知識の習得時期と並行して学習することではじめて理解が進むので, 形態学が後追いとなるようなカリキュラムで学習効率をあげるのには無理があります。それを避けるためには, 形態学も同時に教えなければなりません。そうすると本来の生理学を教授する時間が益々なくなってきました。また, 生理学は, 医学・理学・獣医学それぞれでより専門的な学習が必須であり, 導入時の生理学だけでははるかに不十分であることは明らかです。もし, 導入教育時期に生物の機能の一端を教授する科目を持つてくるのであれば, 「生理学」という科目名は適当ではなく, むしろ一候補として「形態機能学」などという科目名のほうが実情に合うのではないのでしょうか。この最終報告で述べられている「生理学」について, WGが思い描いている教授内容と目標をより具体的にお知らせいただければと思います。	生物学の内容について, 少し説明させていただきます。「生物学」の改革案では, 新入生に対して, 1年次の生物学(生物多様性)と生物学(細胞生物学)の授業を行い, 生物全般について広く学んでもらう予定です。生物は, その延長として, 生物以外の生物学分野について概論的に説明してもらおう, というのが趣旨となります。従いまして, 「生理学」という言葉が誤解を招くのかも知れませんが, より広く生物の高次現象, 個体形質等についての授業の総称としてこの言葉を用いました。もし, 上記に当てはまる適当な表記があれば, 変更可能だと思います。ただし誤解して頂くと困るのですが, これはあくまでも全学教育としての「生物学」ですので, 特定の学部に特化したものではありません。またそのようにしてしまうと, 改革案の骨子である「互換性科目」の趣旨からも逸脱してしまうことをご理解頂けましたら幸いです。(互換性科目WG・理学部・生物・山口淳二)(最終まとめ)では「生理学」を「機能生物学」と改めました。(教育課程WG・安藤厚)
2	水産科 学研究科	教授	報告書やこの報告をまとめる過程での議論を教務委員などから聞いておりますが, 議論は主に新教育課程で中高での教育内容が縮小された生徒に	1)教育課程WGとしては, 2006年問題を「学力の多様化」(学力の上位者と下位者の差が大きくなる)ととらえ, 対策として「基礎学力の育成と学力別ステップアップ授業方式の

対するケアに終始しております。北海道は道立高校しか存在しないに等しいので、そして北大の先生方は、北海道出身者が過半を占めているので、そちらにしか目が向かないのだと思いますが、北大が北海道の大学というローカルな立場だけでなく、全国から優秀な生徒を集める、という立場を取るならば、公立高校と、私立高校（いわゆるヘンサチの高い方の私立高校です）との格差を考えないといけません。関東、関西の私立高校では、特に英語の教育は公立とは雲泥の差があり、これらの高校から北大に入学した生徒は現在ですら、「北大の英語は易しい」と言っているわけで、18年度以降はきちんと能力別クラス編成にすべきであると考えます。これは「検討課題」となっているようですが、そんな悠長なことを言っている場合でしょうか？大学なんだから能力別にするのは何ら問題ないわけです。同様に、数学にも公立と私立の格差がかなりあると思われれます。一律に「下のレベル」にあわせると、関東や関西の私立高校から生徒が来なくなってしまう。「北大は授業がつまらない、易しすぎる」という噂がたつのが一番コワイ。一度そういう噂がたったら二度とその高校から生徒が来なくなります。北海道のことだけ考えないでもっと全国的に生徒を集めたときのことを考えてもらいたいです。

導入」を提案しました。

2) 英語では、「基礎クラス」の設定のほか、TOEFL-ITP試験の成績上位者には1年次2学期の英語等の単位を認定し、「英語演習」「学部専門科目の中の英語科目」の履修を推奨します。

3) 「能力別クラス編成」は、英語では今回「英語」の一部と「英語演習」に導入します。数学については、高校での履修履歴に応じて新たに「入門数学」を開講し、2年次開講の「数学概論」の内容を新たにします。4) 入学試験の成績やプレースメントテストによる「能力別クラス編成」については、入学当初の1週間程度で適切なプレースメントを行うには、実務上さまざまな問題があり、今後の検討課題としました。5) 北大に優秀な学生が集まるような入試制度については、アドミッション・センター、高等教育機能開発総合センター入学選抜企画研究部等で研究を進めています。(安藤厚)

以下は個人的な感想ですが、ご参考までに記しておきます：理論の導出過程を理解することを重視し、じっくり考えて、数学を系統的な学問体系として修得することを目指すという点で、大学で学ぶ数学は、高校までの数学とは目標が大きく異なります。受験数学、とくに意見に書かれている「ヘンサチ」の高い高校で重視されがちな、意味は分からなくても答えがあっていればよいという、機械的で反復した適用練習からなるお受験勉強とは明らかに一線を画します。ですから、下手に受験数学慣れたヘンサチの高い学生たちに、それを理由に特別なメニューを用意することはほとんど意味がありませんし、むしろ有害であると私は考えます。実際、現行の線形代数学でいわゆるヘンサチの高い学部のクラスを担当しても、確かにある程度の差は認められますが(昨年度成績評価の話の通りに申したように優の割合は増えるかと思えます)、他の学部とくらべて理解度が全く違うとは考えません。計算はできても、意外にわかっていないというのが正直な感想です。体系的に理論を理解して身につけた上で適用できるようにする。これは、ヘンサチの高い学生の多くが高校まであまりやってこなかったことで、大学でしっかり学んでもらいたいと考えております。なお、平成18年度以降の線形代数学や微分積分学(第2水準の数学)は、

			<p>今後の検討で多少の内容の削減はあっても、おおむね現行の内容とレベルが維持されると予想しています。数学の理論体系を身につけ、その上で応用力を養うという両目標に照らせば、全学教育科目として本学が提供する数学の内容とレベルが、学力上位者にとって易しすぎるということはありませんことだと私は考えます。(平成16年度「数学」企画責任者・山下博)</p>
3	理学研究科	教授	<p>質問 1.平成17年度は試行期間とあるが、試行期間と本格利用とはどう違うのか。(平成17年度入学生にはどのように説明したらいいのか) 2.これまでは、成績証明に「不可」が記録されなかったが、今後は「不可」も成績証明に記録されることになるのか。(GPAとの絡みで記録すべき) 3.「不可」と「評価せず」は明らかに異なることになるが、評価者は両者をどのように区別するのか。(徹底統一すべき) 以下意見 予定されていると思いますが、4月までに、このような簡単な質問に対する回答集を配布して、制度を徹底する必要があります。いい加減な実施は、実施しないよりもさらに悪い影響があります。「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施等について」(平成14年6月19日教務委員会委員長通知)も再度配布される必要があるかと思えます。さらに、新入学生に対するガイダンス文も準備する必要があると思えます。</p>
4	工学研究科	教授	<p>合格最低水準である「可」に相当するGrade Pointが1.0で、最高点に相当するGrade Pointが4.0ですので、25%のPointで合格できることとなります。海外でのGPを見ますと、私の知る限り、最高点4.0とするとことは多いのですが、合格するための最低水準は4.0の50%以上がほとんどです。したがって、北大でのGPAを海外に持って行った場合、直接比較しにくくなるばかりか、平均的なGPAは低くなり、誤った印象を与える(実際の成績より低いと誤解される)可能性もあります。上記の点</p> <p>Q&A:Q24参照。</p>

		は既に考慮されているとは思いますが、どのように説明されるのでしょうか。		
5	地球環境科学研究科	助教授	<p>全学教育で化学や化学実験を毎年担当しています。「秀」評価について、賛成です。成績を付けていると、飛びぬけて優秀な点を取る学生が1クラスあたり2、3人いて、それを全体の4分の1～3分の1の人数と同じ優をつけるのは忍びないと毎回感じています。GPA制度導入についても、外国に留学して見聞した経験から賛成です。本件を検討されている先生方は、先刻承知の事だとは思いますが、私の米国サンディエゴでの体験は、http://nakamura-2.ees.hokudai.ac.jp/jsacbranch/ShibuNews/ShibuNews25.htmlの分析化学会支部ニュースの後半部(ずっと下の方)に記載されています。よく言われるように運動部の主務や主将をしたことが、就職採用時にポイントになるのなら、日本でも履歴書にsumma cum laude(最上優等生)やmagna cum laude(次席優等生)の記載があっても、おかしくないと思います。大学の成績がよいことが即優秀だとは決して言えない事は、自分の研究室の院生をみているとよく分かりますが、それでも日本の大学での学生にたいしては、もっと勉強意欲を促進させるようにする事が必要だと思います。断片的な内容ですが、感じるところ大でしたので、とりいそぎメールいたします。</p>	<p>記事は参考にさせていただきました。成績優秀者、クラブ活動・ボランティア活動等に対する表彰制度は、「クラーク賞」「エルム賞」等、北大でも整備されてきています。</p>
6	国際広報メディア研究科	助教授	<p>私と数名のアメリカ入学経験のある同僚との意見を以下に述べます。「秀」評価およびGPA制度の実施について(報告)(教育改革室 平成16年度12月)のGPA制度(1)GPの計算方法について。*秀, 優, 良, 可, 不可のグレードポイントをそれぞれ, 4.0, 3.0, 2.0, 1.0, 0とすることについて。外国留学を志す学生を想定すると、点数が低目に設定されており、そのような学生の不利益となる可能性が考えられる。米国を例に取ると, A, B, C, D, Fの評価体系を採用する大学では, それぞれのGPが, 4.0, 3.0, 2.0, 1.0, 0, ま</p>	<p>Q&A:Q24参照。</p>

			<p>た, A, A-, B+, B, B-, C+, C, C-, D, Fの評価体系を採用する大学では, それぞれのGPが, 4.0, 3.7, 3.3, 3.0, 2.7, 2.3, 2.0, 1.7, 1.0, 0というものが, 私たちの知る限りでの基準となっているようである。われわれの経験では, 大学院博士課程(人文系)の場合, 受験したほとんどの大学でGPAに関しては入学の最低基準として3.5以上であることを条件としていた。GPAが入学の可否の決定にあたって考慮される重要な条件の一つであることを考えると, 優が3.0という今回の案は, 現在北大の授業で優を与えられる学生の割合を考えると, 留学する学生に対してかなり厳しいつけ方であるように思われる。例えば, 全ての科目の平均で88点となった学生(おそらく, 上位15%のグループに十分入る成績であると考えられる)のGPAが3.0というのは, あまりにも低い査定であると思われる。以上, よろしくご検討ください。</p>	
7	情報科学研究科	助手	<p>現在の状況をよく把握し切れていないのですが, 1度成績のついた(不可ではなく, 可や良)教科に対して, 翌年再度履修をし, よりよい成績を取り, 後者の成績を最終成績として残すということは現在のシステムで可能でしょうか? 卒業時まで最終的な能力を伸ばすということを目的とするならば, 1度成績のついた(不可ではなく, 可や良)教科に対して, の再度の履修と, 最終的な成績のみの評価を行うというシステムが望ましいように思われます。GPAなどを導入し, 成績を数値的に議論する場合は, このような再履修についての検討も必要なのではないでしょうか。以上, 一つの意見として受け取って頂ければ幸いです。</p>	<p>Q&A:Q24参照。北大のシラバスにおける成績評価基準の記載の現状は, http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/index.htmlを参照。</p>
8	公 共 政 策 大 学 院	教育部長	<p>全学への成績基準に関する意見書-「評価せず」の廃止について-私ども, 公共政策学連携研究部においては, 多様な専攻, キャリアを持つ学生の入学を奨励しており, 入学時点の学力のばらつきはきわめて大きい。また, 社会人や長期履修など, 学習のスタイル</p>	<p>大学院におけるGPA制度の導入は各研究科等で今後ご検討いただく課題です。学部については, 平成18年度から第1年次において履修科目登録の上限設定を実施するのに伴い, 「評価せず」の廃止と履修登録取消し制度の導入を検討しています。(『平成18年度以降の教育課程』最終報告以後の検討結果(最終ま</p>

		<p>ルにも多様性がある。私どもは、個別の学生ごとにカウンセリングを行っているが、履修以前に学力を把握し、本人にあった履修プランを設計することは到底不可能である。したがって、授業科目の履修においても、入学直後は学生たちが、みずからのスタイルをつかむために試行錯誤をおこなうことを当然のこととして想定しており、このプロセスは、学生によっては（たとえ社会人など）、半年程度かかるものと予想している。したがって、履修の登録をしたにもかかわらず、最後まで課題をこなすことができず、単位を取得できないケースは、きわめて多いと考えられ、しかもこれを学生本人の責めに帰すことはできない。このような学生に不利益が及ぶことのないよう、私どもとしては、「評価せず」を存続させていただくよう、強く要望いたします。</p>	<p>め)【資料2】: 1年次における履修登録単位数の上限設定について(平成17年5月)参照) http://info.main.academic.hokudai.ac.jp/GPA/kyouikukatei.htm</p>
9	獣医学研究科	<p>最終まとめ(案)7ページ: 基礎生物学について 基礎生物学Iと の内容が、現行の内容と入れ代わっている。獣医学部では、これらと学部専門科目とを連続性を持たせて教育しており、カリキュラムに大きく響く点があるので、 と の内容を入れ替えて欲しくない。</p>	<p>基礎生物学I, は、専門科目への直接の接続を想定した内容ではありません。専門科目との連続性を考慮したカリキュラムであれば、専門系コースの生物学(細胞生物学),(生物多様性)を指定していただき、その中で講義内容を設計していただきたいと考えています。但し、その場合は、専門科目の中から「機能生物学」の内容に相当する科目を互換性科目として設定していただくこととなります。(互換性科目WG・中村博)</p>
10	獣医学研究科	<p>最終まとめ(案)8ページ2行目:「計3科目の内容を、学部・系・学科・専攻ごとに一体化・連続的なものとする(3-4行目)」という点から、準専門系を選択する学部からは互換性科目を出さなくてもよいということか。</p>	<p>「基礎科目と互換性科目(専門科目)を合わせた計3科目の内容を、学部・系・学科・専攻ごとに一体的・連続的なものとして設計する」制度上の枠組みについては、今後、互換性科目等検討WGでさらに検討します。準専門系を指定する学部での互換性科目については、「最終報告」では「理科の専門系コースを指定する学部以外は、互換性科目の開講の義務はないが、各学部は、この「広い意味での互換性科目」をできるだけ多く開講することが期待される。この科目の導入は、本学の学生に多くの優れた講義を受講する機会を提供し、総合大学に在学することのメリットを実感させることとなる。」、「最終まとめ」では「2年次</p>

				における互換性科目（異なる学部で展開されている共通の内容をもつ専門科目）の拡充をはかる。学部間の協議を推進するため、互換性科目等検討WGの下に、物理学、化学、生物学、地学の科目ごとに専門部会を設ける。」としました。今後この方針で各学部と協議します。（安藤厚）
11	獣医学研究科		最終まとめ（案）新科目の内容で、基礎生物学Ⅰの内容と「細胞生物学」の内容とがほぼ同一であり、用いる教科書も同一である。到達目標に差があるのか、内容の詳細さに差があるのか、ただ教える先生に差があるだけなのか。「準専門系基礎生物学」の位置づけが曖昧となっている。	基礎科目としての生物学の講義内容は専門系か準専門系かに関わらず基本的には変わりありません。しかし、到達目標は、専門系コースの場合は専門科目との連続性を考えたものとなっていますので準専門系コースのものとは異なります。（中村博）
12	教育学研究科	教授	GPA制度「対象科目」に関する質問事項：GPA制度は学生の相対的成績評価に貢献する一方accountabilityのある厳格な成績評価という側面をもっています。学習の到達度に関して、成績差別化の説明根拠に乏しい科目にあっては、厳格な評価の意義づけが困難な場合も想定されます。換言すればGPA制度に乗らない、単位認定に焦点を合わせた成績評価も可能（合・否）であると考えられますが、そのような科目もあり得るのかどうかについての見解をお聞かせ下さい。具体例：体育実技(H18年度以降の体育学A)にあっては、基本的な目標に達した過半数の学生が優と認定されている現状にあります。したがって、評価・差別化を厳格化し、「秀」を導入すべきか、あるいは、単位認定に焦点を合わせた合否の認定という形式が可能かどうか。	GPAを学科分属等の資料として本格的に利用しようとする場合、クラスごと・担当教員ごと・授業科目ごとの成績分布あるいはGPの平均値に極端な片寄りがあると問題が生じます。これについては、今後平成17年度1学期のデータを見て、WG、全学教育委員会、科目責任者会議で検討します。特定の科目をGPAに算入しないためには、「合否」判定による成績評価を採用することも考えられます。
13	農学研究科	教授	私は農学部農業工学科に属しております。農業工学科では測量学と測量学実習を履修すると国土院から測量士補の資格がもらえます。測量学は必修ですが、測量学実習は選択科目です。それで、測量学実習の単位をもらえなかった学生は今までは評価せずにしており、測量士補の資格が欲しい学生は次年度に再履修をすることになります。ここからが質問になります。評価せず今後廃止される	Q&A:Q26参照。選択必修あるいは選択の科目については、不合格のあと再履修によって合格となった場合、合格のGP及び単位数は計算式に算入されますが、前の不合格のGP及び単位数も残りません。なお、資格取得のための履修で、卒業要件に算入できない科目は、GPAの対象となりません（Q19）。

習は不可となります。例えば、
翌年優で実習の単位を認定さ
れた際、GPAは変わらずに、優
成績証明書のみが不可から優
に訂正になると理解してよろ
しいのでしょうか。他にも森
林科学科の学生にとって私の
授業は選択ですが、不可の場
合、樹木医の認定をもらえな
いようです。それで、再履修
して単位を認定されたとする
と、それは成績証明書が訂正
されているから良いというこ
とになりますか。